

【普通作物】の【高温】対策について

<9月>

農業経営支援課

【普通期水稻】（出穂期～成熟期）

（1）予想される被害状況

- ① 高温により白未熟粒が発生し品質が低下する。
- ② 病害虫の多発により収量・品質が低下する。

（2）事前対策

- ① 白未熟粒を抑制するため、基本的な水管理を徹底する

（ア）穂ばらみ期から出穂開花期

湛水状態とする。蒸散量が多い時期であり、吸水量が不足すると穎花の発育や受精に影響を受ける。

ただし、出穂前の湛水状態で水温が高くなると、根が傷み登熟に悪影響を及ぼす恐れがあるので、用水の入れ替えを行う。

（イ）登熟期

間断かん水で根の健全化を図る。落水時も水分不足にならないように土壌が十分湿っている状態を維持する。

用水の水温が低く、十分な用水が利用できる場合、かけ流し（特に夜間）が有効である。

（ウ）ほ場・用水

畦畔からの漏水がないか確認する。

地域全体で節水に心がける。

用水が不足する地域では、地域ぐるみで計画配水に努める。

- ② 病害虫発生について、カメムシ、ウンカ、紋枯病、いもち病の発生に注意し、遅れないように防除する。

（3）事後対策

- ① 間断かん水を継続する。

早期落水は、白未熟粒の発生助長や胴割米・不完全米・屑米の増加につながるため、収穫5日前までは湛水を保つ。

- ② 病害虫の発生状況を確認し、必要に応じて追加防除を行う。